

平成 26 年度

事業所名：グループホーム シリウス姫神

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホームシリウス 姫神		
所在地	岩手県盛岡市玉山区洪民字駅105		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 11 日	評価結果市町村受理日	平成27年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100154-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所時には、多様な症状で入られる方が多いので、認知症になっても笑顔でそっと見守れるような支援をする所の説明をしております。また状態が悪化した時には、ここでの設備では十分な対応できないことも説明し、その方に適したところを紹介したりしてGHの特質を理解していただいています。家族の方には安心だと話されてます。始めて来ていただいた方には「きれいな所ですね」と話されます。生活習慣病も食生活から改善でき薬が減ったりする方がありました。運営推進会議をとおして入所者や退所の方がスムーズに支援できるようになったと思います。職員は幅広い年代層の女性スタッフからなり、他の職業を経験した方がさまざまな特技を生かして、快適な生活が出来るように支援してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは開設4年目で地域に徐々に浸透しているほか、利用者にはホームのキャッチフレーズである「笑顔でそっと見守る穏やかな日々を目指す」の実現に向けて、利用者個々の気持ちや想いをどう把握するかを工夫しながら取り組んでいる。また、毎月、ホームの活動状況等を「グループホームシリウス姫神便り」として家族に情報提供しているほか、利用者個々の日々の写真を一緒に送り非常に喜ばれている。この様に利用者・家族とのコミュニケーションに努めている。また、運営推進会議では、地域情報を提供していただき、地元行事に参加する機会を得て交流が広がっている。また、当ホームの利用者及び職員は全員が女性であるため、生花を多く飾ったり、壁面装飾が工夫され穏やかな中に細やかな配慮が見られる。今後、地域の一層の高齢化が進む中で地域の認知症の支援のためにその役割と機能の発揮について一層期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

平成 26 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己 外部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目的や運営方針を掲げて、実現する為に職員と話し合い、家族の思いをこめてキャッチフレーズにし掲示して実行しています(笑顔でそっと見守る、穏やかな日々を目指します)	開設時に作成したキャッチフレーズ「笑顔でそっと見守る穏やかな日々」を送れることの実現を目指して支援することを掲げ、そのことを常に意識付けするため事務室等、ホールの見やすい場所に掲示しているほか、その実現に向けて利用者・家族とのコミュニケーションを深め実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児、踊り、民謡ボランティア等良いつながりが出来ています、自然災害で途切れた所とも今年はつながり、子供達からも「いつでも呼んでね」と嬉しい言葉がありました。	公民館長や区長などからの情報を得て、地域活動への参加や、施設周辺等自治会の清掃活動と一緒に交流を図っている。保育園(下田・洪民)児やボランティア(民謡)が来所し交流が図られている。	検討している中学生との交流(福祉体験学習)の取り組みを期待したい。開設4年目で、地域住民の一定の理解は図られているが、今後は、地域にとって「一層必要な存在」を目指した繋がりを深めることに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や地域の研修などに積極的に参加し、認知症について地域の方と交流が少しずつ出来てきた。入所者の方も地域の方が多くなっています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に現状を伝えることで、ホームの状況を親身に考えていただいています。地域のさまざまな情報も交換できて、認知症の方が行くところが無い「シリウスで1ユニット増やしてほしい」と話される。	利用者の実態や活動内容を報告し、理解を深めているほか、委員からユニット増床など多様な意見や要望が出され、また地域情報は地域交流に大いに役立てている。時には駐在所の出席を依頼するなどして助言を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請、更新時はもとより地域の会議や勉強会では各種情報をいただきサービスの充実につながってきています。自立支援医療受給者証について詳しく教えていただきました。	更新手続きや医療手続きなどの相談をしたり情報交換を行っている。また、包括支援センターで開催するケア会議にも参加し、個別に利用者の入居相談や情報交換を行うなど、協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルにて学習、理解し見守りや適切な介助で身体拘束をしないでも良いような援助を職員同士が心がけています。	来客対応を含めセンサーを設置しているが、玄関施錠はない。無断外出傾向の利用者はいるが、一緒に散歩や外気浴をに対応している。また、言葉による拘束でも「動かないで」などの声がけに注意し、状況により複数の職員で対応するなど、拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、マニュアルにて学習、理解し虐待が起きないように職員間でも注意している。研修に参加して、職員の意識向上に努めています。			

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、成年後見制度を利用する方がありましたので資料を参考に勉強会をしました。また、必要になった時は適切な精度を勉強したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するには、利用事前調査を行い、家族や本人の意向を確認し、契約の時には重要事項説明書にて納得、安心できるまで分かり易く説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いは、日々の表情で感じ取り、家族からは電話やメール、面会時での確認、定期の報告(毎月)、写真やお便り、みんなの声を設置しています。運営推進会議にて報告し、ご意見をいただきながら運営に役立てています。	毎月、家族に健康状態や行事の活動状況など、ホームでの暮らしの情報を「お便り」として送付し、話しやすい環境づくりに努め電話、面会、病院受診、メールなど、様々な機会、方法を利用し意見や要望を聴いて、利用者の支援やサービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の変化を全体的に把握し、職員とコミュニケーションをとりながら意見をもらい、職員会議で検討し、実績報告にて本社へ報告し運営に役立てている。	職員会議等で意見・提言を聴く機会を設けているほか、申し送りノートを活用している。例えば入浴対応に職員が疲労を感じるの声から一日おきとし、リネン交換の変更、ゲーム導入、昼食の出前の機会をつくるなど工夫しながら運営の改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員の日々の生活状況を理解、把握し各自の能力が発揮しやすいように環境整備に努め、代表者に報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的な事はマニュアルで学び、外部研修は順番に参加できるようにしています。管理者は職員が自ら学ぼうとする事を大切に、ある程度の事は任せ、工夫、発想を大切にしています。今年は資格習得希望者も出てきました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会し、定例会で職員が必要とする研修を受けれるような年間計画を立て参加している。見学や相談、交換研修、今年は、避難訓練にもお互いに参加協力する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急性の高い状態で入所される方が多いので、納得のいくまでお話を聞くことにしています。自分を納得させる言葉が見つかるまで声がけも大切に根気強く対応することになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、家族の思いを受け入れて、事業所で行える事を説明し、ホームの運営方針を理解、納得して頂くことで安心されます。事務も的確に行うことで信頼関係が築けると思い努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所判定基準に基づき入所決定し、GHの特質を説明し、介護計画で調節しながら支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守り、見守られながら共に広い範囲の会話を心がけて、出来る生活の場面を大切にしながら一緒に行っています。髪に飾るシュシュを編んでくれたりして、家族のように見守られている事を感じる時があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に医療機関を受診したり、定期的に面会に来てくれたり、家族、兄弟、親戚の方との外出が出来たりと、本人を通してつながりが出来ているように感じます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達、親戚、隣の方が着てくれた時はゆっくり過ごせる場を作り、デジカメで写真を撮ってあげたりしています。家族との外出、外泊も大切にしています。	家族の協力で墓参りや外出・外泊の機会が増えていくほか、馴染みの衣料店、美容院に出掛けている。また、ドライブを兼ねて買い物や外食に出掛け、新しく馴染み関係を築くとともに、これまでの習慣や関わりが継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士も、見守ってくれたり、話しかけに行ってくれたりする事があります。「皆と一緒に居る事は楽しいな」と言ってくれる方もあります。具合が悪くない限り皆ホールで過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、お世話になったCMさんを通して次につながっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用始めに確認しますが、状態の変化を見逃さずケース記録を参考にしながら、職員や家族とも話し合いながら、その方らしい生活が出来るように支援している。好きなように時間を使っている方もいます。	日々の支援を通じて、個別ケースに希望や思いを把握し記録している。問いかけに意思表示がなく困難な場合は、表情や行動を観察しながら家族にも聴き、食事摂取、排泄などを記録した一覧記録簿も活用し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、CM、本人家族、面会時身内の方から、お話していただける分を確認しています。何十年と過ごされた生活スタイルは変えられない事も覚悟しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を参考にしながら、日々の介護場面においても、日内変動に注意し、有する力を発見して、職員からの情報も加え、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録や、モニタリングを参考にしながら、毎月の職員会議でケース検討し、介護計画に取り入れてます。本人、家族からの言葉、思いをプランに入れるよう心がけています。	日々の記録を参考に、利用者や家族の意見・要望を聴き、担当者・職員・ケアマネジャーで検討し、定期的にドライブの実施、散歩など、利用者の希望や要望を取り入れ、個別に介護計画を作成している。なお、3か月毎にモニタリングを行いながら見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、申し送り帳を活用しケース検討会議にかけ、計画作成者はモニタリングを記録し職員間で共有してプランの見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのときに必要な事で、私達に出来る事を誠意を持って行う(利用できる制度の紹介)など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ここは雄大な自然と、啄木公園や啄木記念館、きれいなお花見の場所もあるので、季節に応じてドライブに出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診介助したり、家族が連れて行ってくれたり、状態の急変時には家族と連絡しながら対応し、入院等もスムーズに対応してもらって安心に綱っています。	医療受診は家族同行を原則としかかりつけ医を利用しているが、家族の都合により職員同行の時もある。また、家族同行の時は、症状等を書面で渡し受診し易くしており、結果は電話等で聞いている。なお遠隔地の場合は家族の同意を得て地元の協力医院に変えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには、看護師が介護職ではあるが勤務しており、介護、看護にもつながりが強い為、利用者への支援も心強いと感じています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医への通院、緊急時の入院できる病院、その後の入所施設、地域包括支援センターの連携も出来ているので本人、家族の安心にもつながっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、その状態に合う対応をする事を入所時に説明しています。家族も納得されているので、その時期には状態にあった施設や病院の相談をしながら、スムーズに対応出来るようになってきました。運営推進会議も活用しています。	契約の際に、医療の設備がなく痰の吸引など医療を必要とする状態になれば、かかりつけ医と相談し、また本人の状態を見ながら家族と相談し、施設の移し替えを含め対応することを丁寧に説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に、事故発生時対応マニュアルにて学習し、消防署の指導のもと心肺蘇生法を受講し看護師からもその都度教えてもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルにて、顔所前に学習し、避難方法は、年2回昼夜の時間帯を想定し訓練しています。隣のGHと災害時の協力体制を作りました。避難訓練にも参加。	1回目は夜間を想定し、2回目は総合避難訓練として消防署員の立ち合いで実施し、消火器の点検と今後も訓練は継続するようにとの講評を受けている。また、同業ホームの職員の参加を得るなど工夫し、利用者を安全・確実に誘導できるよう訓練に努めている。	夜間や冬季時の非常時避難は、施設職員のみでは困難が予想される。運営推進委員の理解協力や、近隣住民・自主防災隊との連携を図る取り組みが期待される。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関するマニュアルにて開所前に学習し、職員も常に声かけや対応に注意しています。	トイレや入浴の誘導は言葉だけでなく、顔を見てアイコンタクトを図り、身振りのサインを交えるなど、一人ひとりに応じてさりげなく行っている。一人で抱え込まないで、皆で支え合いながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、思いやりを持って職員は対応し、信頼を得るようにして、思いや希望を聞きだすようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の希望などを言える方はあまり居ませんが、ほとんどの方は、マイペースで自分の時間ですごしてます。こちらからさまざまなことを提案しながら参加してもらってます。言える方聞き入れてます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活レベルの高い方も入所されており、身だしなみには注意しています、自分の好きな物を買ったり、美容院で髪染めたり、ファッション誌を見たり、お部屋で化粧したりする方もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃のおしゃべりの中から、季節の物や好みを確認してます。畑の野菜も散歩がてら採ってきて食べてます。テーブル拭きやお盆拭き等、気が向いた時は手伝ってもらってます。	食事量を考慮し、食べやすく刻み、好き嫌いも把握している。菜園で収穫した大根やカブを、希望により味噌汁や漬物にして提供し喜ばれている。職員も一緒に食卓を囲んでおり、食事の準備などでは、利用者も配膳などを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、個人差があり盛り付けや、量、食材、栄養バランスに注意し生活習慣病も改善できるように注意しています。水分も記録しながら季節に応じた摂取方法を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の歯がある方もあり、口腔ケアは毎食後必ず全員が見守りと介助で行えています。夜間は入れ歯を洗浄液に入れたり、歯ブラシは日光消毒をして、衛生に注意しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の問題を抱えて入所する方が多く、その方の状態を記録、把握し、提示、随時のトイレ誘導、パット等も使い分け工夫し、日中は全員をトイレ誘導し、失禁を減らしている。	排泄チェック表の活用や表情、もぞもぞしている動作を見ながらトイレ誘導している。夜間はオムツ利用者もいるが、日中は全員がオムツなしである。なお、適切な医療の支援により排泄自立へ改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は、記録を確認しながら、トイレ誘導し、腹部や肛門マッサージで自然排便に取り組んでいる。水分摂取や朝牛乳も取り入れ、頑固な便秘で痔の方も今は座薬を使用しなくなった。排便は全員がトイレで行えるようになった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っており、個人の希望、状態あった入浴方法で入っています。必ずバイタルチェックを行っています。	風呂は毎日利用できるが10時から午後3時までとし1日おきの入浴としている。一人ずつの対応なので、会話に心掛けているほか、一番風呂、熱いお湯、温めのお湯が好きな人と、希望に合わせ個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、今でくつろいでいる方が多いですが部屋で休む方もあり、自由にされています。夜間は、音、温度、その他の障害に注意しながら見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に受診し、服薬は受診時に確認して来た事を申し送り、職員は周知している。受診前には、スタッフにも症状を確認し、医師に伝え適切な処方へと繋げている。服薬時は数人が確認を行う事にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、テレビ、塗り絵、編み物、部屋の片付け、洗濯物たたみ、新聞たたみ、おしゃべり、集団でのリハビリ体操、脳トレ、歌、ゲームなど出来る範囲で行いながら生活されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	床屋さん、美容院、ショッピングセンター、花見、昼食ドライブ、お墓参り、紅葉狩り、子供達と外泊、地域の祭り見学、自宅訪問、ドライブ、ただの散歩、外気浴等入所者の方の希望に添えるよう支援している。	普段は周辺の散歩や、玄関前に椅子を置いて外気浴を職員と一緒に楽しんでいる。希望を聴いてドライブを兼ね買い物、外食などに出掛けているが、トイレが負担にならないよう場所を選んでいる。家族には外泊やお墓参りなどの協力を得ながら外出支援に努めている。夏に行われた花火大会は皆で楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で払う事や、家族から小遣いもらうのを楽しみにしてる方もありますが、違う子供がそれを持って行ったり、本人も「盗られだ」とか、お金の区別が出来なくなってます。兄弟間でお金で絶縁状態の方もいて、関与出来ない危険があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達からの電話がありますが、難聴で会話が成り立たない方もいます。自分の携帯を持って入所された方も居ます。番号を押して電話してあげたりもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に衛生、清潔に心がけて季節の花等飾ったり、季節感が感じられるような壁飾りをしています。床暖、エアコンも使用しながら快適な空間づくりをしています。冬場は談話室を日向ぼっここの場所にして活用してます。、	天井の明かり窓の採光がほどよい明るさをつくり、厨房は隣り合わせで、調理している姿が見え香りが漂っている。テーブル、ソファ、テレビを配置し、壁には、モミジの押し花など利用者の作品を飾り、五感を刺激する環境づくりに配慮し、快適に暮らせる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭や畑の見える所で、日向ぼっこしながらおしゃべりしたり、テレビの前のソファでくつろいだり、写真見たりして自由にゆっくり過ごせる場所となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやテレビ、写真など持ってきて、壁には自分の作品を自由に飾り、面会者には自室に招いてお話ししたりしています。「いいお部屋だね」と言われて喜んでいます。	ベットや車椅子は、利用者の持ち込み、レンタル、施設備品など意向に配慮している。モップでの床清掃は、声がけをし職員と一緒にいい清潔に努めている。生花が置かれ、壁には思い出の写真が飾られ暖かい雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、障害があっても使いやすい工夫がされているので、認知症になっても慣れた場所で慣れた職員に見守られながら、自然体で生活できるようにしています。		